

第2回徳島市男女共同参画推進ネットワーク会議 議事録(要旨)

日 時 令和4年4月20日(水) 13:30~15:00
場 所 ホテル千秋閣 6階 孔雀の間
出席者 22名(委員17名、事務局5名)

1 議題

(1) ネットワーク会議の方針について(主な意見)

A 委員 女性自らの意欲や意識を高めるという事は、徳島特有の女性が更に元気になろうという事を言っているのか、あるいは、男性も意識、意欲を高めていこう、ということなのか。

座 長 意識を変えるのは女性だけではない。男女ともに、職場全体で或いは地域全体でみんなの意識を変えないといけない。

B 委員 ハラスメント的な話が出てくる方達はかなり年齢が上の男性の方が多いと思う。女性が管理職に上がるときに、その辺りの年齢の方達の理解は重要で、意識改革をしていったほうが良いと思う。

C 委員 幅広く網羅されているのは良いと思うが、現状から変えていきたいターゲットをより具体的に絞り込まないと、明日から何かアクションが変わるのかという時に変わりにくいと思う。各論的な議論が必要である。

(2) ネットワークの連携事業について(主な意見)

B 委員 動画の中で、徳島市ではこんな解決方法があるというように、実際に一歩踏み出せるような情報を提案していくのが良いのでは。

D 委員 男女共同参画を進めるためには、学校が終わる前、企業へ入社する時などに研修を行うなど、出来るだけ機会を捉えて、順番を決めて一つずつこなしていかなければいけない。

E 委員 動画については、女性活躍に実際取り組んでいる成功事例を探すとわかりやすいのでは。家事、育児、介護について、何か徳島市ならではの取り組みを考えることが出来れば、もっと全国に発信できるのではないかと考える。

C 委員 現状の中でうまくいっている事例を、どんどん研究、事例分析する事が必要である。

- F 委員** 総会や色々な企業が集まる機会、今世界は、日本は、県は、市は、こういう風に女性活躍を進めているという意識改革が、年代的な意識の違いを変えていく上ではとても必要なのではないかと感じている。
- G 委員** 4世代の考え方のギャップは、非常に大きく感じる。年齢が上の世代、若い世代、それぞれの考え方の違いを感じ、どうやって世代間の違いを埋めていけばいいのか。解決に向けて進んでいくのは難しい。
- H 委員** 男女共同参画というと非常に範囲が広いと思う。世代間の考え方の違いがある。何が日本にとって本当に良いのか、全体的な議論も必要。
- I 委員** 阿波女に対するイメージのデータなどを生かし、阿波女をブランディングできるような事も動画に取り入れてほしいと思う。
- J 委員** 企業アンケートなどのデータをもとに、社会的な認識やジェンダーギャップが本当にどのくらいあるのかという事を知り議論するべきでは。ロールモデルカフェを継続的で長期的なものにした方が良い。気づきから行動になるためには継続が必要。
- K 委員** 男性の当事者意識がないのではないかと。本当に意識の改善をして欲しい対象の人は恐らく参加しないと思う。どうやってそういった方に向けて、必然的に参加せざるを得ないような状況にするかという事も考えた方が良くないか。
- L 委員** 若い人は、男性育休を100%にしようという認識を持っているが、管理職や経営層にどういう風に理解してもらおうか。職場の中でも理解が必要である。徳島市全体で何か取組をしていけばよいのではないかと。思う。
- M 委員** 経営層が育休をとる事が会社のためになると思えなければ、なかなか動かないのではないかと。動画を作成するにあたり、そういった企業の事例のようなものがあればよいのではないかと。
- N 委員** 企業の中老年や男性の経営者の方々に、ジェンダーギャップの解消や男女共同参画に取り組んでもらうメリットを感じてもらう事が必要では。また、この会議は、どういったところを目指していくのかという事なるべく具体的にすることも必要である。
都道府県版ジェンダーギャップ指数などのデータを示し、徳島県は上位にいるなどの情報を共有し認識することで、行動が変わってくると思うので、良い情報をどんどん共有できればと思う。